

ごあいさつ



芳川豊史教授

皆さん、こんにちは。

教授に着任して、5 度目の春を無事に迎えることができました。
我々を支えてくださる皆様のおかげと感謝しております。

名古屋大学呼吸器外科の使命は、臨床、教育、研究の 3 本柱です。我々は、東海・中部地方の核となる名古屋大学、そして名古屋大学医学部附属病院として、高いレベルで、かつ、バランスよく、この 3 つの使命を全うできるように、日々励んでおります。

それでは、恒例に従い、現況報告をさせていただきます。

名大病院呼吸器外科の手術数は、毎年増加しております。2023 年は 463 件の全身麻酔手術を行いました。このうち、原発性肺癌は 312 例で過去最多でした。手術のアプローチは、8 割を内視鏡手術で行っており、詳しくは、胸腔鏡手術(VATS)197 件、ロボット支援下手術(RATS)182 件、通常開胸手術 86 件でした。RATS の累積症例数も 700 件を超え、2023 年の肺癌に対する RATS は 150 件を超えるなど、国内でも経験豊富な施設の一つとなりました。

手術においては、低侵襲な内視鏡手術(VATS や RATS)での対応を常に考えますが、根治性や安全性を第一に、適宜、通常の開胸手術でのアプローチも行っております。拡大手術も多く、同門である心臓外科教室との連携を武器に、大血管処置のいる縦隔腫瘍や肺癌の手術においても即座に対応できる体制をとっております。また、様々な診療科との共同手術も行っております。

さらに、肺移植実施施設に認定されてから 1 年が過ぎ、脳死肺移植の待機患者数も、もうすぐ 10 名となります。肺移植のシミュレーションも定期的に行っており、いつでも対応できる体制を整えております。

教育面では、外科医離れが進む流れの中で、関連病院と一体となって、研修医および学生の教育や勧誘を進めております。この 5 年間で、25 名を超える医局員を新たに迎えることができましたが、名古屋大学は、中部地区に多くの関連病院を有しており、未だ呼吸器外科医が不足しているというのが実情です。今後も、頑張って、仲間を増やしていきたいと思っております。

教室のホームページ(<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kokyuukigeka/>)の更新にも力を入れております。ぜひご覧ください。

研究面では、大学としての使命として、科学研究費や AMED などの競争的資金に積極的に応募しております。現在、数本の科研費(B、C、若手)を獲得し、日常臨床の合間を縫って研究を進めております。分子生物学的な研究だけでなく、実臨床に近い、外科手技に関係する研究も行っております。教室の研究テーマの一つである、変形シミュレーション研究では、[情報学系の教室と連携し、手術操作や脱気による肺の変形に対応したアルゴリズム](#)を開発し、将来的な手術ナビゲーションを目指しております。

最後になりましたが、本年も、名古屋大学呼吸器外科を中心として、20 を超える関連病院の同門一同が力を合わせて、より良い呼吸器外科医療を確立すべく、日々努力していきたいと存じます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。